

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493200087		
法人名	有限会社 ウェルケア		
事業所名	グループホームやすらぎ白島		
所在地	広島市中区白島九軒町16-6 (電話) 082-222-3444		
自己評価作成日	平成25年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3493200087-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年10月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

好縁会グループの理念と「生活づくり10カ条」を基に、「その人らしさ」と「自立支援」を実現できるように、その人の生活歴を知ること、また、人として当たり前の行為である「食事・入浴・排泄」において、可能な限り自らの意思により、自らが行うことができるよう支援しています。そして、経営母体が医療法人であることを活かし、適切な医療との連携を実現し、安心して暮らすことのできる環境づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

当事業所は、医療法人を母体とし、介護と医療の緊密な連携体制が構築されている。また、広島駅から車で5分程度の市街地に位置し、東側には太田川の支流や河川公園があり、四季を通じ自然に恵まれた環境となっている。今年度目標として、①「ケアの統一」どの職員も同じケアができる様に各種研修会へ積極的に参加する。②「地域との連携」町内会に加入し、盆踊りや神社祭りなど地域行事への参加と事業所行事への参加を呼びかける③「個別ケアの充実」利用者一人ひとりの生活歴を熟知し、思いや希望を汲み取り実践する、を掲げ取り組んでおり、さらに、ユニット間の垣根をとり、18名の利用者を職員全員でケアをする体制を作り、取り組まれている事が伺える。

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業計画において、地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域社会との有機的な繋がりを構築することを目標に掲げている。	法人の理念と好縁会「生活づくり10カ条」を基に、毎年事業計画を設定して事業所の重点方針を作成し、実践している。また、全職員が個人目標と実行計画を記したチャレンジシートを作成して実践し、年2回の面接・振り返りを行い理念と達成状況を評価している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会へ加入することにより、回覧板等で地域行事をタイムリーに把握し、ご利用者と一緒に地域の行事へ参加している。	町内会に加入し、町内会の掃除や祭りの準備を職員が手伝い、盆踊りなどの地域行事に利用者と職員が参加し交流を深めている。また、事業所の行う行事に地域住民や子供達、地域のボランティアなど多くの方に声かけをしていきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携し、事業所において、地域の方との意見交換会（地域サロン）を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にご利用者及びご家族の代表者や、地域包括支援センターの職員、民生委員の方など広く招致し、一方的な報告会とするのではなく、意見交換の場として、相互の理解を深めている。	運営推進会議には住民代表、地域包括支援センター職員、家族代表、利用者が参加し、活発な意見交換が行われている。出席者から出た意見を反映し、サービス向上に活かしている。保育園や女性会・ボランティア会など地域で活動しているグループと連携した取組みの必要性や事業所の居室入口に担当者名前・顔写真を貼って欲しいとの提案があり実践している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町において、研修会等が開催される場合には積極的に参加するよう努めている。また、運営推進会議への参加依頼、空室状況や事故報告書等を随時知らせている。	運営推進会議の案内、事業所の取り組みや実績を区介護保険担当課に知らせている。市や区が主催する会議や研修会に積極的に参加し、また、年に1回程度開催される地域住民合同での研修会に参加し、協力関係づくりに取り組んでいる。	

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内及び事業所内の研修において、身体拘束が人権侵害にあたることを職員に周知している。</p>	<p>身体拘束をしないケアについて、職員は理解し実践している。法人全体・事業所内研修を定期的実施している。入居者一人ひとりの外出に必ず職員が同行している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止についての研修を実施するとともに、個人面談等により、職員のストレスマネジメントにも留意している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護の制度について、まず管理者及び介護支援専門員が理解するとともに、個別の案件において、適切な援助ができるよう努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時にご家族に対し、後のトラブルを避ける意味でも必要事項をきちんと説明するとともに、質問事項に対し、的確な答え・説明を行っている。また、改定事項が発生した場合は、速やかにご家族に対してお知らせをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会を年2回実施、その際、運営等に関する質問や意見を伺い、返答及び意見の反映をできるように努めている。また、その内容を会議録に残し、必要に応じて全体会議等により、職員に周知させている。</p>	<p>家族の面会時や年2回行う家族会、運営推進会議など、機会ある事に意見や要望を聴き、事業所の運営に反映させている。「はくしまだより」の毎月のお届けに、参加出来ない家族からも事前に要望を聴き家族会に反映させている。</p>	

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度、全体会議を開催、事前準備として、全職員の意見を集約しておき、内容をまとめたものを会議にて協議・決定している。	全職員の意見や要望をフロアーリーダーが聞き、月の定例会で協議している。職員から日々の買い物や宅配等に対応し、利用者さんとのふれあう時間を増やしていきたいとの意見があり、定例会で話し合い、買物を利用者と一緒にするのも大切なふれあいの時間であり、何よりも買物を利用者が楽しみにしており、結論としては現状維持となった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な職員面談を実施するとともに、職員評価のツールとして、「職員考課表」を使用している。また、業務改善により休憩時間の確保を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修の計画に対し、個々の課題分析を基に参加すべき研修を選定している。また、事業所内研修において、法人内研修の内容をフィードバックしている。外部研修については、「研修補助制度」により、個人負担を軽減できる仕組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	広島市や地域主催の勉強会等に出席することで、顔合わせや情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時面談の際、現状で困っていることや不安なことを伺う時間を設け、担当者も可能な限り固定して、早期の信頼関係づくりに努めている。		

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用にあたり、家族の要望や在宅における介護負担をしっかりと傾聴するとともに、事業所のコンセプトを明確に伝え、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居申し込み及び面談の際、当事業所を含めた社会資源を模索し、適切なサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症介護における「共にある」という思想の下、本人の役割づくりに努めている。（家事を共に行う等）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の縁が切れることの無いよう、特に縁遠い方に関して日頃より本人の様子を伝えたり、来所いただける日を伺ったりしている。また、個別外出の際には、家族を巻き込んで行なうようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人・知人等の受け入れを積極的に行い、家族に対してもその旨を伝え、交流の機会を提供している。	知人や親戚の方々が頻繁に来訪されている。地域の行事に積極的に参加し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、取り組んでいる。	

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性を配慮した席配置にしたり、利用者同士が会話しやすい雰囲気づくりを職員が仲介役となって行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院等により退所となった方に対し、面会を行ったり、必要に応じて相談援助を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを最大限汲み取ることができるよう、意図的に思いを把握できる機会をつくり、意志疎通が困難な場合は、家族より聞き取りを行う。	全職員で利用者の思いを巡らせ「その人らしさ」の実現に向け取り組んでいる。入居者の希望を聴き「誕生日に家族と一緒に遠方の地にある墓に参りたい」を家族と協力し実現させた。また、意志疎通が困難な場合は家族からの聞き取りや担当者が日々の生活の中で、思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前、及び必要に応じて、ご自宅へ伺い、住まれていた環境を把握するよう努め、本人及び家族に対して聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日を通じてバイタルチェックによる状態把握と、アクティビティの時間を設けることで、身体能力を見定める等行い、必要に応じて記録に残し、伝達・共有をしている。		

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	日頃ケアにあたっている職員からの情報を基に、家族や医療職との情報共有、及び意見の反映を行い、広い視野を持って介護計画の作成している。	担当職員、利用者や家族、医療関係者と話し合い、意見を反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、モニタリングについては全職員の意見を反映し、プランの見直しに活かしている	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	生活状況記録と個別記録という様式を使用するとともに、業務日誌やケアノート（申し送りノート）といった連絡ツールも活用して、情報共有を図っている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	グループホーム内で日常生活が完結してしまわないように、個々の能力に応じた場面設定や、臨機応変な支援を心がけている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	地域行事等に参加することで、地域に根ざした事業所づくりを目指し、個々の利用者が一地域住民として活躍できる機会の提供を心がけている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	基本的には往診医と訪問看護との連携により、医療ニーズに対応している。しかし、希望があれば、入所前のかかりつけ医と連携して、柔軟な対応を心がけている。	週1回の主治医の往診や訪問看護、年1回の定期受診などを活用し乍ら適切な医療支援が行われている。本人や家族の希望するかかりつけ医の受診については、原則家族が対応されているが職員が対応する事もあり、その時は医師、家族、職員の間で情報を共有している。	

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日頃より医療的判断を必要とする場合は、速やかに医療職へ連絡を行い、適切な処置ができるよう密な連携体制をとっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力病院を定めており、入院となった場合、随時の面会や、退院前カンファレンス等により、迅速な対応ができるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>主治医の判断により、早期の段階で終末期についての説明が必要である場合、管理者及び訪問看護の立会いの下、家族的確な説明を行っている。</p>	<p>入居時、事業所として終末期の対応や方針を説明して覚書を取り交わしている。家族が看取りを希望される事を想定し、職員間で事業所でできることを話し合い、家族や医師・看護師と共にチームで終末ケアに取り組む事を共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>外部委託により「救命講習」を受講したり、緊急時マニュアル等により、いざという時の備えを周知している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の防災訓練の実施、及び防災マニュアルを基に、防火管理者が防災教育を行っている。地域に対しては、自主防災等の話し合いをつめていく予定である。</p>	<p>年2回消防署に依頼し、避難訓練を行っている。また、防火管理者がマニュアルを基に防災教育を行っている。地域との関係を深めながら、協力体制の構築に取り組まれている。</p>	<p>年2回の訓練以外に、夜間を想定した避難誘導や利用者の避難経路の確認などについて自主訓練を行い、災害に備えて頂きたい。さらに、運営推進会議の意見にもあった様に、町内会との連携が必要であり、地域住民参加のもと防災訓練をして頂きたい。</p>

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	傾聴・受容・共感を意識してコミュニケーションを行い、言葉づかいや対応についても、親しみの中にも敬意を持つことを心がけている。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉づかいや対応について職員間で共有し、研鑽している。尊敬語を使うことで躊躇する利用者には、親しみの中にも敬意ある対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定を最大限行えるよう、親切・丁寧な説明や対応と、意思確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務マニュアルを極力設けず、「その人らしさ」に重きを置いてケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の趣向を基に、家族にも以前よりお召しになられていた洋服等をお持ちいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りが一緒に可能な方は、調理・盛り付け・配膳等を手伝っていただき、個々の役割を確立している。	利用者と職員と一緒に調理や盛り付け、配膳などをしており食事は楽しみなものとなっている。時には「生鮮まつり」と称し、新鮮な魚を一匹取り寄せ、事業所で舟盛りを作り、利用者皆で美味しく食べるなど、食事場面も工夫され、食事を楽しむ取り組みが行われている。	

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事形態を個々に合わせて変えるとともに，水分量については，一日1500ccを目標としており，摂取一覧表を活用する等，適切な摂取量を維持できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	訪問歯科による定期診療、及び毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄自立に向けて，個々の排泄パターンを把握するとともに，適切な声かけや下剤を使わないよう努めている。	「排泄の自立」については，法人母体の「好縁会生活10カ条」の「排泄は自分でしたいもの」安易なおむつはしない事を事業所としても実践しており，排泄パターンを把握し，トイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事等に食物繊維を多く含んだ食品を使用したり，水分量を一定水準を保つといったことを心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	個々のニーズに合わせ，タイミングを図ったり，適切な入浴環境を整えたりして，気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。	基本的には週3回、午後の時間帯に、職員が1対1の介助をしている。また、利用者の希望に添い同性介助にするなど、臨機応変に対応している。入浴を単なる身体の清潔保持だけでなく、コミュニケーションを図り、楽しみながら気持ちよく入浴出来る様に支援している。	

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	その都度の体調に応じて、いつでも休息できるよう配慮するとともに、昼夜逆転にならないよう、日中の活同量に留意している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬剤師の配薬を基に、スタッフ間においても服薬情報を一覧にしたものを閲覧し、誤薬がおこらないよう留意するとともに、症状の変化を随時モニタリングしている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	個々の生活歴を知ることで、一人一人の趣味や嗜好に合わせた活動を提供することを心がけている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	個別外出を計画し、家族の協力を得ながら、個々の思いを形にできるよう努めている。	日常的な外出支援としては、一人ひとりの希望や体調を見ながら、事業所裏の河川公園や近くのお寺などに散歩に出かけたり、買い物に同行したりしている。また、家族の協力を得ながら「熊野の里」やお花見などにも出かけている。護国神社の参拝に出かけるなど、一人ひとりの思いを形にする取り組みも行っている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	基本的に金銭の預かりは行っていないが、自己管理能力があると判断される場合や、本人及び家族が強く希望される場合に限り、文書により責任の所在を明確化させ、金銭を所持していただくことは可能である。		

1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	電話の取次ぎや、手紙を書きたい方への支援は日常的に行っている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	屋内の落ち着いた色調をコンセプトに、室内に温度・湿度計を設置し、快適に暮らしていただけるよう配慮している。	利用者が居心地よく過ごせる様に、設備や備品をしっかりと備えている。高低差のあるリビングのテーブル、一人ひとりに対応した椅子、トイレにカーテンをかけプライバシーを配慮するなど、居心地よく過ごせる工夫が見受けられる。また、リビングからは太田川や河川公園の緑が臨まれ季節を感じながらゆったりと過ごせる空間が確保されている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共用スペースにはソファやテレビを配置することで、くつろげる空間を提供している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入所時に、馴染みのある家具等を持ち込んでいただけるよう配慮することで、少しでも落ち着いた環境で過ごしていただけるよう努めている。	テレビやタンス、布団など利用者が居室に馴染めるように家族と相談しながら備品を整備している。	
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	全面バリアフリーになっているとともに、手すりの設置や、動線を意識したレイアウトを心がけている。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業計画において、地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域社会との有機的な繋がりを構築することを目標に掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会へ加入することにより、回覧板等で地域行事をタイムリーに把握し、ご利用者と一緒に地域の行事へ参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携し、事業所において、地域の方との意見交換会（地域サロン）を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にご利用者及びご家族の代表者や、地域包括支援センターの職員、民生委員の方など広く招致し、一方的な報告会とするのではなく、意見交換の場として、相互の理解を深めている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市町において、研修会等が開催される場合には積極的に参加するよう努めている。また、運営推進会議への参加依頼、空室状況や事故報告書等を随時知らせている。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	法人内及び事業所内の研修において、身体拘束が人権侵害にあたることを職員に周知している。		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	高齢者虐待防止についての研修を実施するとともに、個人面談等により、職員のストレスマネジメントにも留意している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	権利擁護の制度について、まず管理者及び介護支援専門員が理解するとともに、個別の案件において、適切な援助ができるよう努めている。		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時にご家族に対し、後のトラブルを避ける意味でも必要事項をきちんと説明するとともに、質問事項に対し、的確な答え・説明を行っている。また、改定事項が発生した場合は、速やかにご家族に対してお知らせをしている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	家族会を年2回実施、その際、運営等に関する質問や意見を伺い、返答及び意見の反映をできるよう努めている。また、その内容を会議録に残し、必要に応じて全体会議等により、職員に周知させている。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	月に一度、全体会議を開催、事前準備として、全職員の意見を集約しておき、内容をまとめたものを会議にて協議・決定している。		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	定期的な職員面談を実施するとともに、職員評価のツールとして、「職員考課表」を使用している。また、業務改善により休憩時間の確保を図っている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	法人内研修の計画に対し、個々の課題分析を基に参加すべき研修を選定している。また、事業所内研修において、法人内研修の内容をフィードバックしている。外部研修については、「研修補助制度」により、個人負担を軽減できる仕組みがある。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	広島市や地域主催の勉強会等に出席することで、顔合わせや情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	入居時面談の際、現状で困っていることや不安なことを何う時間を設け、担当者も可能な限り固定して、早期の信頼関係づくりに努めている。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用にあたり、家族の要望や在宅における介護負担をしっかりと傾聴するとともに、事業所のコンセプトを明確に伝え、信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居申し込み及び面談の際、当事業所を含めた社会資源を模索し、適切なサービスを提供できるよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>認知症介護における「共にある」という思想の下、本人の役割づくりに努めている。（家事を共に行う等）</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人と家族の縁が切れることの無いよう、特に縁遠い方に関して日頃より本人の様子を伝えたり、来所いただける日を伺ったりしている。また、個別外出の際には、家族を巻き込んで行なうようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人・知人等の受け入れを積極的に行い、家族に対してもその旨を伝え、交流の機会を提供している。</p>		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係性を配慮した席配置にしたり、利用者同士が会話しやすい雰囲気づくりを職員が仲介役となって行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院等により退所となった方に対し、面会を行ったり、必要に応じて相談援助を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを最大限汲み取ることができるよう、意図的に思いを把握できる機会をつくり、意志疎通が困難な場合は、家族より聞き取りを行う。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前、及び必要に応じて、ご自宅へ伺い、住まれていた環境を把握するよう努め、本人及び家族に対して聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日を通じてバイタルチェックによる状態把握と、アクティビティの時間を設けることで、身体能力を見定める等行い、必要に応じて記録に残し、伝達・共有をしている。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	日頃ケアにあたっている職員からの情報を基に、家族や医療職との情報共有、及び意見の反映を行い、広い視野を持って介護計画の作成している。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	生活状況記録と個別記録という様式を使用するとともに、業務日誌やケアノート（申し送りノート）といった連絡ツールも活用して、情報共有を図っている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	グループホーム内で日常生活が完結してしまわないように、個々の能力に応じた場面設定や、臨機応変な支援を心がけている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	地域行事等に参加することで、地域に根ざした事業所づくりを目指し、個々の利用者が一地域住民として活躍できる機会の提供を心がけている。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	基本的には往診医と訪問看護との連携により、医療ニーズに対応している。しかし、希望があれば、入所前のかかりつけ医と連携して、柔軟な対応を心がけている。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	日頃より医療的判断を必要とする場合は、速やかに医療職へ連絡を行い、適切な処置ができるよう密な連携体制をとっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	協力病院を定めており、入院となった場合、随時の面会や、退院前カンファレンス等により、迅速な対応ができるよう努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	主治医の判断により、早期の段階で終末期についての説明が必要である場合、管理者及び訪問看護の立会いの下、家族に的確な説明を行っている。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	外部委託により「救命講習」を受講したり、緊急時マニュアル等により、いざという時の備えを周知している。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	年2回の防災訓練の実施、及び防災マニュアルを基に、防火管理者が防災教育を行っている。地域に対しては、自主防災等の話し合いをつめていく予定である。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	傾聴・受容・共感を意識してコミュニケーションを行い、言葉づかいや対応についても、親しみの中にも敬意を持つことを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定を最大限行えるよう、親切・丁寧な説明や対応と、意思確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務マニュアルを極力設けず、「その人らしさ」に重きを置いてケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の趣向を基に、家族にも以前よりお召しになられていた洋服等をお持ちいただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事作りが一緒に可能な方は、調理・盛り付け・配膳等を手伝っていただき、個々の役割を確立している。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事形態を個々に合わせて変えるとともに、水分量については、一日1500ccを目標としており、摂取一覧表を活用する等、適切な摂取量を維持できるよう努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科による定期診療、及び毎食後の口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄自立に向けて、個々の排泄パターンを把握するとともに、適切な声かけや下剤を使わないよう努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事等に食物繊維を多く含んだ食品を使用したり、水分量を一定水準を保つといったことを心がけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>個々のニーズに合わせ、タイミングを図ったり、適切な入浴環境を整えたりして、気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。</p>		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その都度の体調に応じて、いつでも休息できるよう配慮するとともに、昼夜逆転にならないよう、日中の活同量に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤師の配薬を基に、スタッフ間においても服薬情報を一覧にしたものを閲覧し、誤薬がおこらないよう留意するとともに、症状の変化を随時モニタリングしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活歴を知ることで、一人一人の趣味や嗜好に合わせた活動を提供することを心がけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個別外出を計画し、家族の協力を得ながら、個々の思いを形にできるよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的に金銭の預かりは行っていないが、自己管理能力があると判断される場合や、本人及び家族が強く希望される場合に限り、文書により責任の所在を明確化させ、金銭を所持していただくことは可能である。		

2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	電話の取次ぎや、手紙を書きたい方への支援は日常的に行っている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	屋内の落ち着いた色調をコンセプトに、室内に温度・湿度計を設置し、快適に暮らしていただけるよう配慮している。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	共用スペースにはソファやテレビを配置することで、くつろげる空間を提供している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入所時に、馴染みのある家具等を持ち込んでいただけるよう配慮することで、少しでも落ち着いた環境で過ごしていただけるよう努めている。		
55		<p>○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	全面バリアフリーになっているとともに、手すりの設置や、動線を意識したレイアウトを心がけている。		

1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

1階

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

2階

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームやすらぎ白島

作成日 平成25年12月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	防災訓練について、内容の見直しが必要である。	防災訓練を地域と合同で開催する。 夜間想定避難訓練を実施する。	町内会に合同開催の打診をする。 夜間を想定した計画を作成し、実施する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。